

2004 年度 IA サーバ出荷調査報告

ノークリサーチ (本社〒124-0001 東京都葛飾区小菅 4-12-5 : 代表伊嶋謙二 03-5629-2163、URL : <http://www.norkresearch.co.jp>) では 2004 年度の国内 IA サーバの出荷状況を調査した。2005 年度の予測も併せて調査、報告している。

<2004 年度 IA サーバ市場のポイント>

2004 年度 IA サーバ市場は増勢傾向で、過去最高の出荷実績

- 台数では対前年比 20.6%アップで昨年度を上回る伸び。443,900 台の市場へ

- 金額市場は 4.3%の増加。サーバの低価格化はさらに加速

景気の底打ち感から投資意欲増加。官公庁、自治体需要に加え、ネット新興企業が市場の追い風

メーカーシェアは NEC 23.2%で 1 位、デルが 20%で 2 位、HP も 19%と伸ばす

インターネット関連とエントリサーバ需要の IT インフラの投資意欲が高い

ラック型 (薄型) とタワー型の割合は変わらないが双方伸張。ブレードは 4.2%と増やす

2005 年度は 13%増の 50 万台市場へと突入することが見込まれる

対象期間 : (2004 年度実績) 2004 年 4 月から 2005 年 3 月

(2005 年度予測) 2005 年 4 月から 2006 年 3 月

対象メーカー : 電子情報技術産業協会 (JEITA) 自主統計参加及び未参加メーカー

日本電気、富士通、デル、日本 IBM、日本 HP、日立製作所、東芝、三菱電機など

対象機種 : 電子情報技術産業協会 (JEITA) 定義に準ずる

調査方法 : 当該メーカーに対する直接取材及び弊社データベースによる分析

調査期間 : 2005 年 5 月

[2004 年度出荷状況]

- 対前年比 20.6%アップで、市場規模過去最高の 443,900 台へ -

2004 年度は対前年比 20.6%アップで、過去最高の 443,900 台市場となった。2003 年度までの景気停滞の影響で買い控えが目立った市況が、2004 年度に入り全体的な景況感が良好で、投資意欲が上昇したことが要因だ。全体的な景気回復傾向を反映した心理的な投資の緩みが見られる。特に中堅から大手企業を中心に情報系サーバの増設利用が目立った。また大都市圏における新興ネット企業なども需要を牽引している。

また IT 投資減税、WindowsNT から Windows server2003 へのリプレース、Y2K 導入企業のサーバ見直し需要なども好調を支えている。

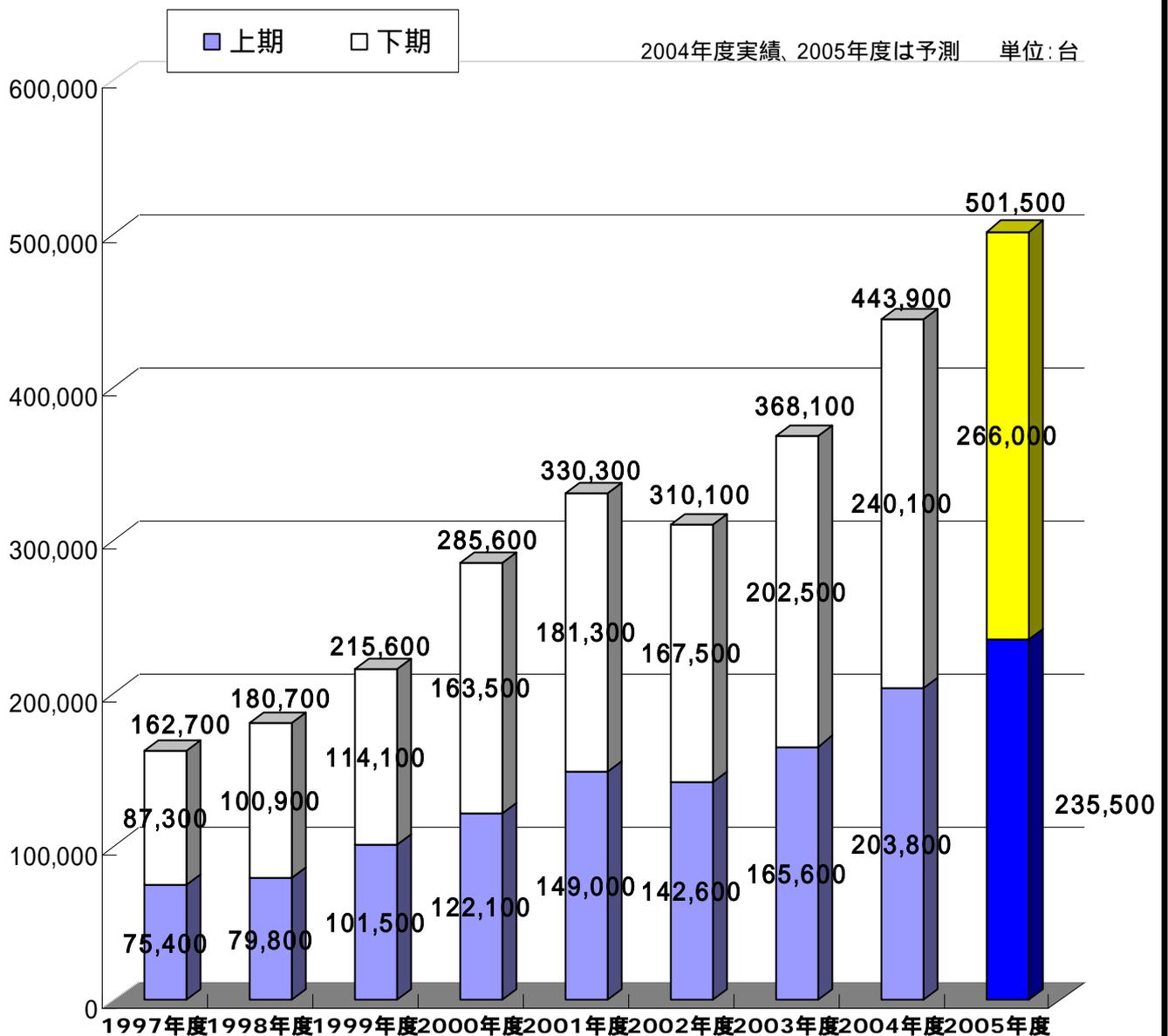
業種別ではまだら模様ながら、製造業では自動車産業、金融では地銀、証券、病院の電子カルテ需要などが好調な分野として目立った。また地方自治体での E ジャパン関連の需要も好調だった。下期になって民需と官庁、自治体が堅調な伸びを見せた。

金額市場は、低価格サーバの需要が高いことと、ベンダの低価格化戦略が功を奏し、平均単価の下落傾向は進んでいるが、ラック型サーバ、ブレード型サーバなどの増加により金額市場は 4.3%アップの 2,778 億円となっている。

国内IAサーバ総出荷台数推移/予測（97年度から2005年度）

	上期	前年同期比	下期	前年同期比	合計	前年比
1997年度	75,400	151.4%	87,300	124.0%	162,700	135.4%
1998年度	79,800	105.8%	100,900	115.6%	180,700	111.1%
1999年度	101,500	127.2%	114,100	113.1%	215,600	119.3%
2000年度	122,100	120.3%	163,500	143.3%	285,600	132.5%
2001年度	149,000	122.0%	181,300	110.9%	330,300	115.7%
2002年度	142,600	95.7%	167,500	92.4%	310,100	93.9%
2003年度	165,600	116.1%	202,500	120.9%	368,100	118.7%
2004年度	203,800	123.1%	240,100	118.6%	443,900	120.6%
2005年度	235,500	115.6%	266,000	110.8%	501,500	113.0%

国内IAサーバ市場推移



[2004年度メーカーシェア]

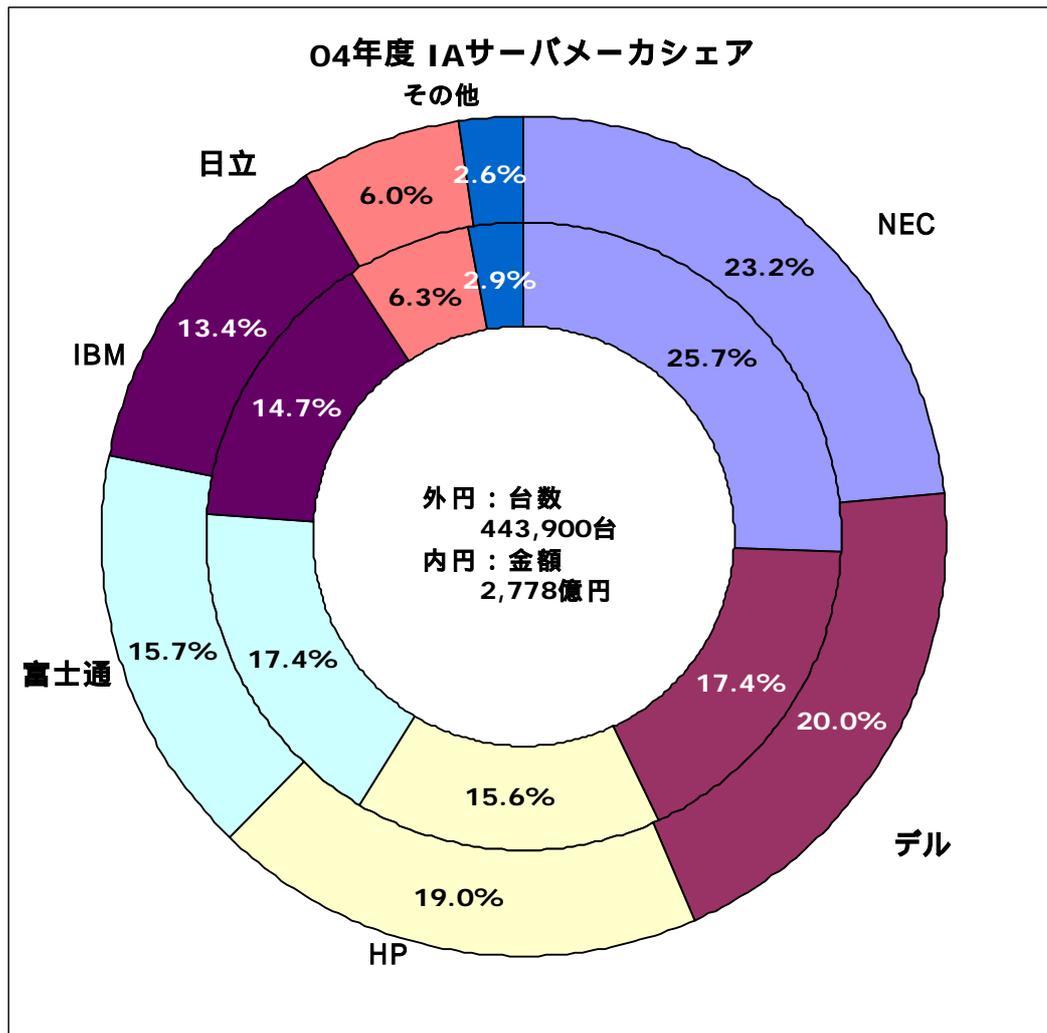
- 総合力の NEC がトップ。2 番手にはデル、HP が首位に肉薄

メーカーシェアでは NEC が 23.2%のシェアで依然トップ。NEC の強みは全国の地域販売店のチャネル販売と安定した直販力と幅広い製品対応、多くの既存ユーザの実績による安定感だ。数千台規模の大口需要はなかったが、全国のチャネルでの中堅・中小企業向けのエントリ系サーバの展開と基幹系システムの攻略という地味だが確かな展開で、着実にシェアを確保している。

デルは大掛かりな広告展開と WEB や電話による直販で企業の情報系サーバに狙いを絞った展開で好調を維持している。20.0%のシェアで NEC について 2 位だ。直販だけでなく、ユーザからの指名による、Sler による実質的なチャネル販売の実績も見逃せない。

上位 2 社に迫る実績をあげてきているのが HP だ。HP はようやく合併後の組織改革や製品展開が明確な戦術となって表れてきており、大きく実績を回復している。特にデルとの一騎打ちの形での低価格戦でも健闘し、対前年比 45.4%アップの全メーカー中最高の伸びを見せた。シェア 19.0%と富士通を抑えて 3 番手となっている。

次いで富士通が 15.7%で 4 位だ。富士通は上期終盤における自治体向けの受注活動が好調だった。下期になり相対的に伸びが緩んだ。ただし NEC 同様チャネルなどの総合力は強みだ。5 番手はブレードサーバが好調な IBM が 13.4%となった。



[2005年度市場展望]

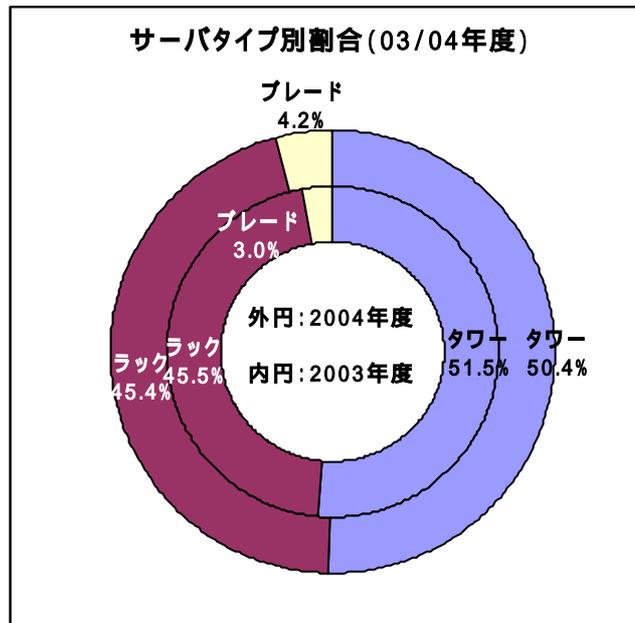
- 対前年比13%の伸び、501,500台と50万台の大台へ -

2005年度は景気の回復傾向がそのまま推移することが予想され、民需の低価格サーバを中心とする中堅・中小企業向けのソリューション、特にインフラ系の導入がまだまだ活発のため引き続き安定した需要が見込まれる。またネット企業などの新興勢のサーバ需要は根強い。

ラック型サーバは好調に推移しており、企業規模に関係無く安定的に需要が拡大している。2004年度で全体の45.4%を占めた。2005年度にはタワー型を逆転することは間違いない。

ブレードサーバは大学、研究所を中心としたクラスター的な用途から一般企業へサーバ統合的な導入が見られ始めているが、2004年度ではまだ4.2%に過ぎない。05年度に弾みをつけながら、06年度以降に本格的なサーバ統合などの高需要が見込まれ10%程度の割合を示すことになるものと予想される。

全体的には2005年度の投資意欲は景気の底打ち感による上昇が見込まれる。さらにY2K導入サーバのリプレース、WindowsNTのバージョンアップ、Linuxの浸透、IT投資減税の施行等が市場の追い風となって、増勢傾向は続き、前年度対比13%増の501,500台と予測される。



当調査データに関するお問い合わせ



ノーク・リサーチ
 担当：伊嶋 謙二 いしま
 e-mail: pressr@norkresearch.co.jp
 〒124-0001 東京都葛飾区小菅 4-12-5
 電話 5629-2163 FAX 5629-2164
 URL: <http://www.norkresearch.co.jp>